

「水のマエザワ」東南アジア留学奨学金 帰国報告会

実施日：令和2年2月25日（火）11：00－12：00

主催：前澤工業株式会社

会場：前澤工業株式会社 アクアテクノセンター

参加者：約30名

1. 開会あいさつ（前澤工業株式会社 海外推進室 檜垣室長）
2. 来賓あいさつ（埼玉県国際課 和田課長）
3. 帰国報告
留学生：山本沙季（東京農工大学 農学部生物生産学科 土壌学研究室3年）
留学先：インドネシア ボゴール農科大学
留学期間：4か月間
4. 質疑応答
5. 閉会

【報告内容】

自己紹介の後、留学概要の話がありました。山本さんは AIMS プログラム（ASEAN International Mobility for Students Program）という ASEAN 諸国の結びつきの強化を目的とした学生交流プログラムの一環で、インドネシアのボゴール農科大学へ留学。ボゴール農科大学は山本さんの留学先である、農学部以外にも獣医学部や水産学部をはじめとする9学部が設置され、特に農学及び生命科学の分野ではインドネシアでは最先端であり、質の高い教育と研究が活発に行われている為人気のある大学です。

そこで山本さんは、土壌や肥料などの栽培法に関する専門分野である講義だけでなく、視野を広げる為にも種子学、バイオテクノロジー、観葉植物学、経済学などの授業も履修。特に経済学の授業では、ウコンを使用したジュースをチームで開発し、利益 UP の為の戦略や SNS を通じた宣伝活動に至るまでを学んだそうです。この授業を通して、たくさんの友人を増やすことができ、充実した留学生生活を過ごすことに繋がったと話がありました。

今回の報告会ではメインとして、山本さんが感じたインドネシアの「ごみ問題」と「水問題」についての考察を聞かせていただきました。

インドネシアでは、日本のごみの“Recycle”という考えが浸透しておらず、分別してごみを捨てる習慣がないそうです。ごみの処理方法は、国内にいくつかある廃棄場に山となってごみが積みあがっているのが現状で、近隣の住民に少なからず衛生面での悪影響があり、地下水の汚染のほか小動物や害虫の繁殖の原因にもなっていると感じたそうです。

ごみの山の問題がある一方で、留学先のボゴール農科大学では“ノンプラスチック運動”を掲げており、学生たちがマイボトルやマイストローなどを持ち歩く“Reduce”への意識の高さを感じたのだそうです。そこで、山本さんは国ごとに得意なことが違うのであれば、それをお互いに補完し合うこと

で問題を解決することを提案していました。それは、世界が手を取り相互の協力や技術提供によって補うことができるのではないかというものでした。

またインドネシアの「水問題」は「ごみ問題」と密接に関係しているようです。まず、国内で供給されている水道水できれいな水が出てくる場所はないとのこと。それは飲食店の世界的大手チェーン店でも家庭でも同様です。浄水能力がない為、水はバクテリアに汚染されており、安全に飲むことや普通に使用することさえできない状況が日常とのこと。その為、インドネシアでは企業が浄水したペットボトルの水に頼っています。生活用水はすべてその販売されている水を使います。水道が使えないことでペットボトルの消費量は非常に多く、世界でも第2位のプラスチックごみ排出量だということが示されていました。さらにその消費されたペットボトルのごみも含め、ごみ処理方法が適切でないことで川や土壌の汚染に繋がるという連鎖が起こっているそうです。このようなことから、水道水の浄水機能をどのように作るかはもとより、まず先に「ごみ問題」を解決することこそ、安全な水を確保することへの第一歩だと山本さんはおっしゃっていました。



【質疑応答】 一部抜粋

Q 農作物に対する安全衛生はどうか？

A 土壌自体が荒れているという問題があります。例えばピーナッツと米を混作する試みを行っていますが、ピーナッツと雑草ばかりが育ってしまい米がなかなか育たないという環境でした。

Q 留学中の一番よかった思い出は？

A インドネシアの現地友人をたくさん作ることができたことです。イスラムの教えの中に、人にやさしくすることで自分自身にも報いがあるというモットーがある為、みんな自分のことより人の為に苦勞をいとわないことに感動しました。そして、とにかくみんな純粋で優しいことにも感動しました。

Q インドネシアではイスラムの割合が多いということで、お祈り文化があるがどうしているか？

A 1日5回お祈りをしています。日本でムスリムの文化を受け入れるにあたっては、お祈りができる場所が少ないことが懸念されます。日本にはモスクの数も少なく、友人はお店の試着室を使ってお祈りをしていたことがありました。オリンピックに向けて準備が必要な点だと感じています。

Q 今後の進路は？

A インドネシアの亜熱帯とは違うアフリカの乾燥地域の土壌研究を学びたいと考えています。



報告会終了後、山本さん（中央）、松原社長ほか前澤工業株式会社の皆様と

【最後に】

報告会終了後、前澤工業株式会社の松原社長からは、山本さんがこれから日本でそして世界で活躍してくれると嬉しいとお話も出ました。山本さんのご活躍を私たち GGS も影ながら応援しています。